

数値目標

1.9 **》** 2.07
【2030年】 【2040年】

目標	基準値	実績値	目標値
県民希望出生率「1.9」を目指す	1.45【H26】	1.53【R1】	上昇【R1】

第1期を通しての進捗状況及び今後の方向性

○本県の合計特殊出生率は、1.53と全国平均（1.36）を上回り、1.5台を5年連続で維持。合計特殊出生率の変動は様々な要因が重なり合っており、短期的な変動について一喜一憂すべきものではないが、上昇基調にあるのは明るい傾向である。

○一方で、2030年に県民希望出生率1.9、さらには2040年に人口置換水準2.07まで上昇を目指すため、引き続き、国、県、市町村が役割分担をしながら、企業や地域との連携のもとに、中長期的な視野に立って粘り強く継続的な取組みを進めていく。

重要業績評価指標(KPI)の状況

達成	概ね達成	未達成
4	0	7

施策の進捗状況

順調に進捗	一層の推進が必要	重点的な推進が必要
2	4	0



数値目標

目標	基準値	実績値	目標値
若者・女性の転出超過数	▲1,550人【H25】	▲1,159人【R1】	移動均衡【2019年】
人口の社会増を目指す (全体の転出超過数)	▲1,147人【H26】	▲813人【R1】	+100人【2019年】 +200人【2024年】

第1期を通しての進捗状況及び今後の方向性

【若者・女性の転出超過数】

○若者・女性（15～34歳）の社会移動は、近年は改善傾向にあり（▲327人【H28】，▲18人【H29】）、H30には+182人と転入超過となったが、R1は▲1,159人と再び転出超過に転じた。特に20～29歳の転出超過が多い（▲1,074人）ことから、若年層の県内定着のため、20～24歳の新卒就職時、25～29歳の第2新卒、転職世代へのきめ細かい対策強化などが必要である。

【人口の社会増を目指す】

○H28から3年連続で転入超過を維持していたが、日本人の若年層の転出超過が依然として続いており、外国人の「転入一転出」の増が一段落したことからR1は全体でも転出超過となった。一方で、相談窓口を通じた移住者が過去最高の926人となるなど、成果を上げている取組もあることから、引き続き社会増に向けた取組を行っていく必要がある。

重要業績評価指標(KPI)の状況

達成	概ね達成	未達成
38	15	28

施策の進捗状況

順調に進捗	一層の推進が必要	重点的な推進が必要
16	32	4



創業研究開発センター



県立大学看護学部(2019.4開学)専用の富山キャンパス「教育棟」

数値目標

目標	基準値	実績値	目標値
1人当たり県民所得の維持・向上	307.7万円【H24】	331.9万円【H29】	同水準を維持、向上【2019年】

第1期を通しての進捗状況及び今後の方向性

○個人消費の緩やかな持ち直しの動きや設備投資の増加の動きが見られたことなどを背景として、主力産業である製造業において、ウエイトが大きい化学やはん用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイスなどで総生産額が増加したことや、総生産の約6割を占める第3次産業で生産額が増加したことなどにより、県内総生産額が増加し、1人当たり県民所得は331.9万円で引き続き全国トップクラス（第6位）にある。

○女性・高齢者等の活躍促進や外国人材の活躍促進と多文化共生の地域づくり、グローバル人材の育成、高度ものづくり、医療・福祉、観光など幅広い分野で人材のスキルアップを図っていく「ひとづくり」施策を推進するとともに、県内産業の労働生産性向上により、企業収益を伸ばし、その収益が個人所得に十分還元され、個人消費が伸びていくという好循環を生み出していくことを推進していく。

重要業績評価指標(KPI)の状況

達成	概ね達成	未達成
7	4	5

施策の進捗状況

順調に進捗	一層の推進が必要	重点的な推進が必要
6	9	1



女性就業支援センターでの
相談風景



数値目標

目標	基準値	実績(最新)値	目標値
健康寿命の延伸	男性70.63歳、 女性74.36歳【H22】	男性72.58歳、 女性75.77歳【H28】	男性72.74歳、 女性76.32歳【H31】
ずっと富山県に住みたい、富山県に戻って住みたいと考える高校生の割合	59.8%【H27】	53.8%【R2】	60%以上【H31】

第1期を通しての進捗状況及び今後の方向性

【健康寿命の延伸】

○健康寿命は、男性72.58歳（全国8位）、女性75.77歳（全国4位）と、計画策定時（H22）と比較して伸びているものの、健康寿命延伸に向けた健康づくりに取り組む機運の醸成をさらに推進する必要がある。

【ずっと富山県に住みたい、富山県に戻って住みたいと考える高校生の割合】

○「一度は県外へ出ても、富山に戻って住みたい」、「ずっと住みたい」と考える高校生は53.8%と、前回調査（59.8%【H27】）と比べて6ポイント減少している。

○一方で、「わからない」と回答した高校生が約5ポイント増えており、未来の進路に悩む高校生たちに働きやすさ、子育てのしやすさ、住みやすさといった本県の魅力をしっかりと伝えていく必要がある。

重要業績評価指標(KPI)の状況

達成	概ね達成	未達成
46	26	20

施策の進捗状況

順調に進捗	一層の推進が必要	重点的な推進が必要
27	28	1

